

## シラコバトの識別

蓮田市 長嶋宏之

2023-04-30

はじめに

シラコバトは埼玉県を代表する鳥だが、最近見かける機会が少なくなり、大部分はゲージの中で飼育されているのが現状だ。観察する機会が少なくなった今日、識別も確かな物ではなくなってきた感がある。ゲージから放たれ、観察できる機会が増える日に備え、良く似たジュズカケバトと比較しつつ、ここに識別ポイントを整理しておきたいとの思いに至った。特記なき写真はいずれも 2023-04-11 に大宮公園小動物園にて、筆者が撮影した。

※印に続く番号は引用した資料を示す。



写真1：シラコバト(12-11-25)長嶋一行田市



写真2：ジュズカケバト

### (1) 一般

和名	シラコバト	ジュズカケバト
英名	Eurasian Collared Dove	Ringed Turtle Dove
学名	<i>Streptopelia decaocto</i>	<i>Streptopelia risoria</i>
全長・翼開長	31-33cm 47-55cm	25-30cm 47cm (※1)
体重	200g	160g
初列・次列・三列・尾	10枚・9枚・3~4枚・12枚	調査中
分布など	ユーラシア大陸や北アフリカなどに分布している。日本に生息する個体は江戸時代に外国から移入されたといわれる(もともと生息していたという説もある)。	中央アフリカ原産のバライロシラコバト <i>Streptopelia roseogrisea</i> が原種とされる。全長 25 から 30 センチメートル。全体的に淡い灰褐色で後頸部に半月状の黒輪がある。

	<p>国内では、主に埼玉県東部を中心に生息している。</p> <p>第2次世界大戦後の乱獲によりにより絶滅寸前となる。1956年（昭和31年）1月14日、「越ヶ谷のシラコバト」として、国の天然記念物に指定された。その成果もあり、最近では群馬県南部でも生息が確認された。これとは別に、山口県萩市の見島では朝鮮半島から飛来したと考えられる個体の観察記録が残る。</p> <p>(※2)</p>	<p>風切羽は黒褐色、嘴は暗褐色。シラコバトによく似ているが、背や翼の褐色がシラコバトよりも薄い。白変種をギンバト（銀鳩）といい、全身白色で嘴と脚が紅色。</p> <p>古くから世界中で飼育されていた。一部の地域では野生化しており、アメリカのロサンゼルス、タンパ、マイアミでは大群となっている。</p> <p>(※3)</p>
--	--	---

詳細は(※8)参照。

## (2) シラコバトの特徴とジュズカケバトとの相違点

- ①鳴き声
- ②全長
- ③上面の色と風切の色の濃度差
- ④尾が長く感じる
- ⑤下尾筒の色
- ⑥下面の尾羽の元部の黒斑の大きさ
- ⑦外側尾羽の先端の白斑
- ⑧その他

## (3) 相違点の解説と検証

### ①鳴き声

シラコバト 細い「クッカー、クツ、クウツ。」 “さえざりナビ”より  
<https://db3.bird-research.jp/saezuri/birdsong/detail/189>

ジュズカケバト 「クー、クルー」「クルクル」「ポッポッ」 “YouTube”より  
<https://www.youtube.com/watch?v=QdFIbgIjdoo>

②全長

シラコバト 31-33cm ジュズカケバト 25-30cm

③上面の色と風切の色の濃度差

シラコバトの風切は黒く、上面との色の濃度差が大きい。ジュズカケバトは濃度差が小さい。

色の濃度差が大きい

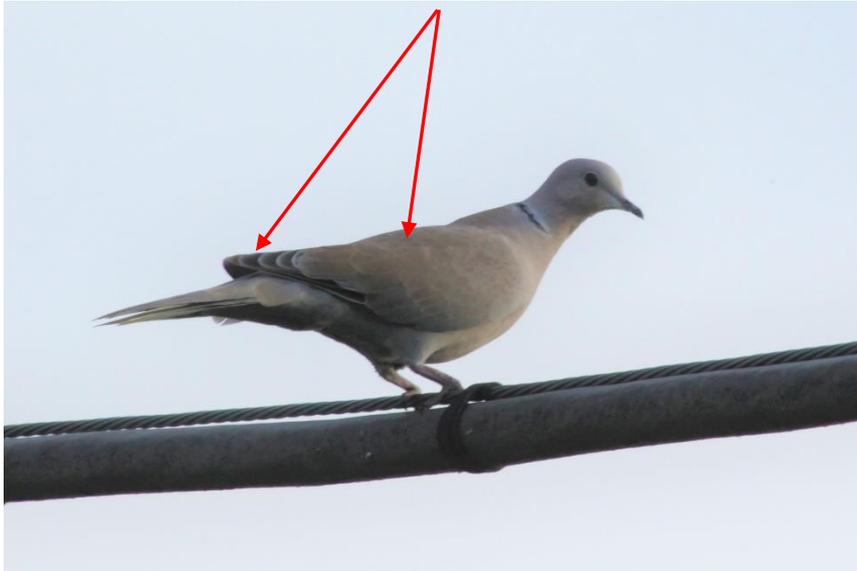


写真3： シラコバト(12-11-25)長嶋一行田市小針

色の濃度差が小さい



写真4：ジュズカケバト

④シラコバトは尾が長くみえる。

尾が長くみえる特徴を数値で示せないかと思い、下記の方法での数値化を試みた。

三列風切の先端から初列風切の先端までの値Aと三列風切の先端から尾の先端までの値Bを物差しで測定し、その比を算出した。

シラコバト A : B = 1 対 2.7~3.6

ジュズカケバト A : B = 1 対 2.2~2.4

翼の閉じ方、写真の角度などで、値は変わるが、シラコバトの尾が長い傾向は分かる。但し、換羽中や事故などで抜け替わり、伸長中の場合、この方法は使えない。

<計測結果>



写真5：シラコバト

□部拡大

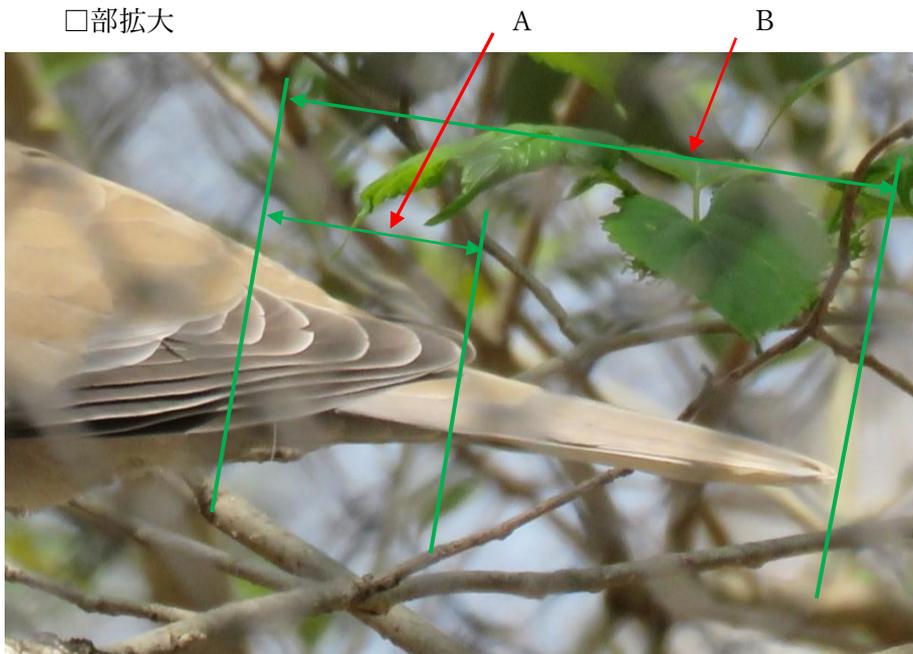


写真5-1：シラコバト A : B = 44 : 121 = 1 : 2.75

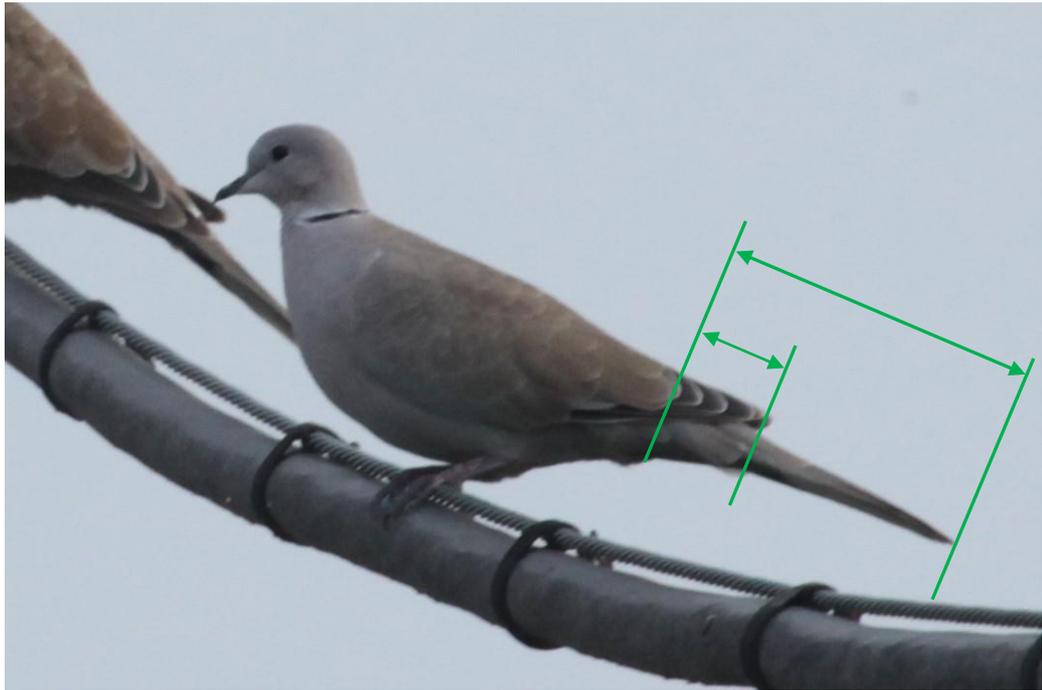


写真6：シラコバト(12-11-25)長嶋一行田市小針(1-1) A : B=1 : 3.6

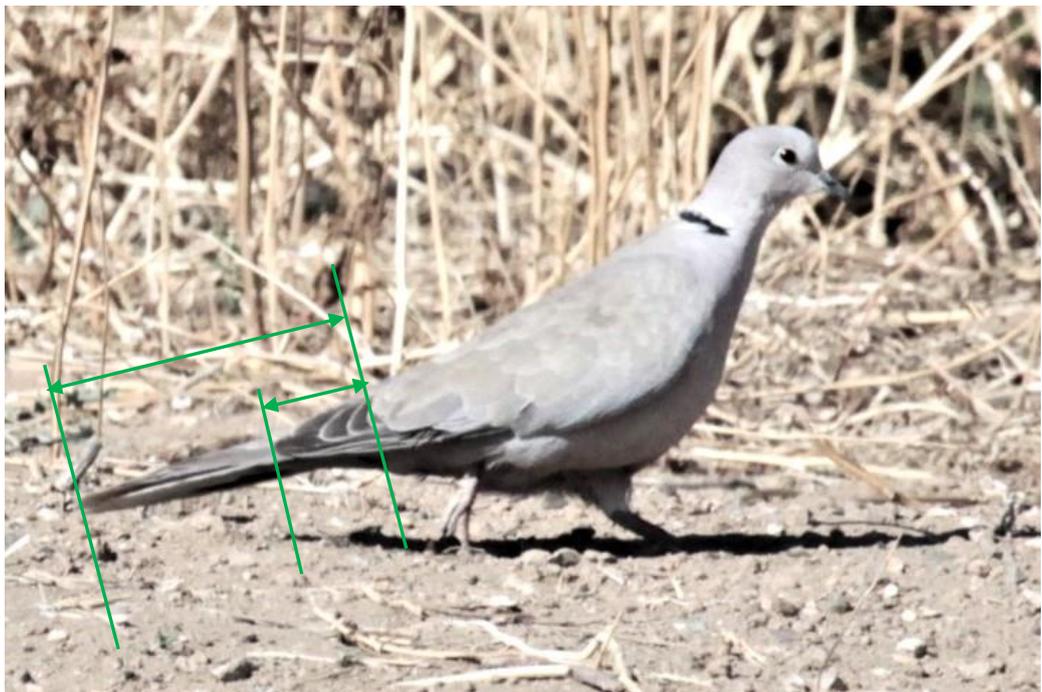


写真7：シラコバト(15-05-18)長嶋-Mongol S-Gobi A対B=1対3.0

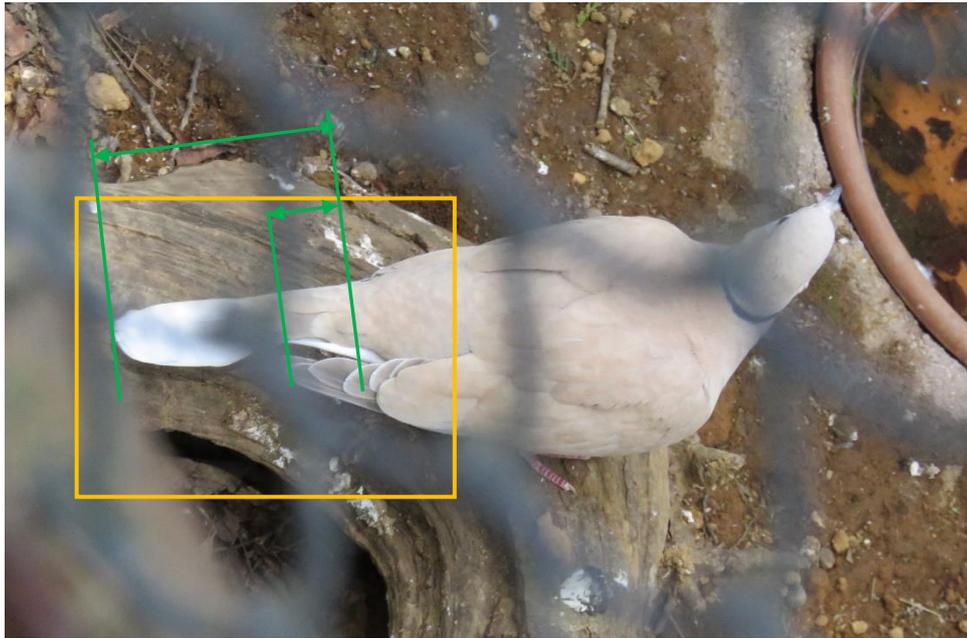


写真 8：ユズカケバト

□部拡大

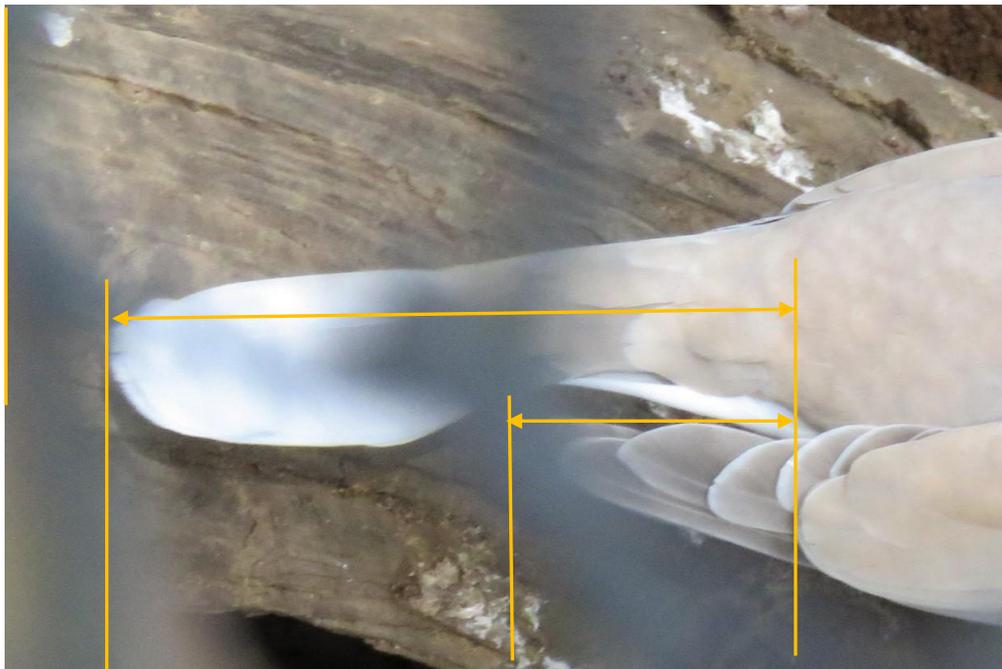


写真 8-1：ユズカケバト  $A : B = 1 : 2.4$  (尾を上げ、翼を下げていたかもしれない。尾の先が白いのは撮影条件が光の条件に不適合だった。)



写真 9：ジュズカケバト A 対 B=1 対 1.9 （翼が下がっているので、正しい測定結果は期待できない。しかし尾が短いことは一目で分かる。）

他の例 ジュズカケバト Net（図なし） A：B=1：2.2

⑤下尾筒の色（※4）

シラコバト：灰色

ジュズカケバト：白色



写真 10：シラコバト 黒斑が長い⑥ 下尾筒が灰色⑤



写真 11：シラコバト (08-04-05)長嶋—Cameron Arizona 黒斑が長い  
下尾筒が灰色



写真 12：ジュズカケバト 下尾筒が白色 黒斑は短く下尾筒より出ない

⑥下面の尾羽の元部の黒斑 (※4)

シラコバトの黒斑は尾羽の外側にいくに従い、下尾筒の先端を大きく超える。  
ジュズカケバトは下尾筒の先端が黒斑より長く、先に出ている。

⑦外側尾羽の先端に白斑があり、飛ぶと目立つ (※5) (※6)

外側4～5枚の先端は白く目立つ。特に最外尾羽 T6 の内弁は大きく白い。  
(※7)



写真 13：シラコバト(15-05-18)長嶋－Mongol S-Gobi

⑧シラコバトのその他の特徴

形態：キジバトに比べてやや小さく、スマートな体型で尾が長くみえる。

遠目では体全体がかなり白っぽい印象を受ける。

羽色：雄の方がコントラストが強いが、ほぼ雌雄同色。全身紫色を帯びた淡い灰褐色で、後頸に黒と白の横縞がある。

初列風切は黒い。尾羽基部は黒く先端が白い。背面は褐色味が強い。嘴は黒く足と虹彩は赤い。(※8)

幼鳥は成鳥に似るが、頸に黒と白の帯はない。(※9)



写真 14：シラコバト 巣立ち直前(09-06-19)柳 清二ー大和根町

(4) まとめ

8項目の識別点を解説しましたが、野外での識別に当たっては1箇所の特徴で判断せず、写真を撮るなどして、複数箇所の特徴を確認して判断することをお勧めします。

(5)謝辞

この資料を纏めるに当たり、写真を提供してくれた柳 清二氏に紙面を借りて感謝申し上げます。

(6) 引用資料

※1：自然科学観察コンクール 羽のふしぎ 天野寿珠 三重県四日市市富洲原小学校

<https://www.shizecon.net/award/detail.html?id=464>

※2：ウィキペディア フリー百科事典 シラコバト

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A9%E3%82%B3%E3%83%90%E3%83%88>

※3：ウィキペディア フリー百科事典 ジェズカケバト

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%A5%E3%82%BA%E3%82%AB%E3%82%B1%E3%83%90%E3%83%88>

※4：NATIONAL GEOGRAPHIC Field Guide to the Birds of North America  
4<sup>th</sup> EDITION

※5：新訂日本の鳥 550 山野の鳥 山形則男・他 文一総合出版 2014年

※6：山溪カラー名鑑 日本の野鳥 高野伸二・他 山と溪谷社 1996年

※7：改訂新版日本の野鳥 羽根図鑑 笹川昭雄 世界文化社 2001年

※8：Bird Research News Vol.13 No.11 2016.24 生態図鑑

シラコバト 小峯 昇

[https://www.bird-research.jp/1/seitai/13\\_11\\_decaocto.pdf](https://www.bird-research.jp/1/seitai/13_11_decaocto.pdf)

※9：日本の野鳥 650 大西敏一・他 平凡社 2014年